

ご利用のてびき 2020

博物館活用事例集①⑥



学校見学

出前授業

貸出キット

職場体験

実践事例

etc



企画交流課

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

TEL. 055-261-2631 FAX. 055-261-2632

<http://www.museum.pref.yamanashi.jp/>

目 次

1 博物館を学校で活用する

- p. 1 山梨県立博物館について
- p. 2 どのような活用方法がある？
- p. 3 博物館に行ってみる（観覧しての学習）
- p. 10 博物館に行ってみる（庭の活用）
- p. 12 貸出教材（ミュージアム・キット）を活用してみる
- p. 15 出前授業を活用してみる
- p. 22 職場体験・インターンシップの実習

2 各種博物館事業について

- p. 23 かいじあむティーチャーズクラブについて
- p. 27 子ども学芸員事業のご案内
- p. 28 「山梨の未来を描こう」絵画作品応募について

3 実践事例の紹介

- p. 29 ティーチャーズクラブの先生方より

「竜王西小学校の博学連携活動について」

甲斐市立竜王西小学校 有泉 幸枝 教諭

「体験活動を通した学び」

山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校 三浦 大樹 教諭

山梨県立博物館について

（博物館の紹介）

山梨県立博物館は、子どもから高齢者までが世代を超えて交流し、歴史と文化を学ぶ場、そして情報発信の場として、山梨県笛吹市に平成17年（2005）10月15日に開館し、今年開館15周年を迎えます。

本博物館は、基本テーマである

「**山梨の自然と人**」を活動の基本におき、山梨の豊かな自然と人々がどのように向き合ってきたのかという歴史を総合的に調査研究し、それらの成果をこれからの地域振興の重要な指針として提示できるような博物館を目指したいと考えています。



（博学連携）

山梨県立博物館の目指す大きなテーマの1つに『**博学連携**』があります。博物館と学校とが望ましい形で連携、協力を図りながら、子どもたちの教育を進めていこうという取り組みです。開館以来、子どもたちが郷土の歴史に興味を持ち、郷土への愛着を抱くことを目指して、学校と博物館とが協力して、博物館の「人」や「モノ」や「情報」を積極的に活用することに努めてきています。

平成23・24年度と笛吹市教育委員会の協力のもと、笛吹市の小中学校と連携しモデル事業を行いました。また、笛吹高等学校との博学連携として、「博物館を利用した郷土研究」や博物館の「古代の畠」による農作業などを行っております。『かいじあむティーチャーズクラブ』も会員数が約2700名を超え、多くの先生方が入会しており、教育活動に生かしております。

どのような活用方法がある？

① 博物館に児童生徒を連れて行く

令和元年度には、のべ小学校48校、中学校32校、高校・特別支援学校11校、その他23校 合計114校あまりが来館し、見学や学習を行いました。

☆具体的な利用例

- ・遠足、県内巡りなどの学校行事
- ・社会科見学、教科等での校外学習
- ・支援学級における生活单元学習
- ・職場体験学習（インターンシップ）
- ・親子活動（PTA 活動など）



② 博物館の「モノ」を使ってみる 12ページ

学校への貸し出し教材〔ミュージアム・キット〕をご用意しています。

③ 博物館の「人」を使ってみる 15ページ

博物館職員が学校に訪問して〔出前授業〕を行っています。社会科や総合的な学習の時間、博物館見学の事前学習、親子学習会、PTA研修会、教職員研修会などご利用いただいています。費用はかかりません。先生方のねらいに応じた内容で可能な限り対応致しますので、ぜひご相談ください。

④ まず先生が博物館に親しんでみる 23ページ

→ [かいじあむティーチャーズクラブについて](#)をご覧ください

⑤ 研究会や校内研などによる先生方の研修

博物館では先生方の研修を受け入れています。企画交流課までお問い合わせください。

※その他ご不明な点などがありましたら、お電話等でお問い合わせください。

（企画交流課 TEL 055-262-1278）

博物館に行ってみる（観覧しての学習）

1 学校見学予約票をFAX送信後、電話でお問い合わせください。

当館ホームページ上で予約票をダウンロードして、必要事項を記入の上、当館にFAX送信後、電話をしてください。（055-262-1278）その際、見学予定日が開館日かどうか、**11ページのカレンダー**でご確認ください。（火曜休館の他、臨時休館があります。）

2 下見においでください。

原則として、下見を実施してください。先生方の指導意図を聞いて、見学メニューを決めたり、見学上の注意事項を確認したりします。ご希望があれば先生方へのガイドも行います。

3 「観覧料等免除申請書」をご提出ください。

当館ホームページ上で申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、職印の押印をし、郵送または、下見の際に直接ご提出ください。（提出期限は、実施日の2週間前までです。）→先生方の観覧料を免除するためです。

※引率者がティーチャースクラブ会員の場合は、申請書は必要ありません。

4 来館日

1時間30分が標準的な滞在時間です。標準的な見学メニューは、「常設展自由見学（30分）→ワークシート（30分）→お庭の活動（30分）」です。この他に、企画展自由見学・オリジナル映画（地方病・水害・戦争：各10～15分）・紙工作などのメニューがあります。なお、**ワークシート**については、当館ホームページにて公開していますので、各校でご用意ください。（**4～7ページの資料**をご参照ください。）

※今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、入館時の消毒・事前検温によるチェックシートの提出・常設展示室（同時刻最大100名）の人数制限を設けるなど、利用の制限がありますので、ご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

5 博物館を利用してのご感想、ご意見などをお寄せください。

来館時にアンケート用紙をお渡しします。現場の先生方の意見や感想を、今後の運営に生かしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

6 その他

昼食場所は、原則として当館の芝生広場となっております。雨天時等の昼食場所については、下見の折にご相談ください。



引率の先生方へ

山梨県立博物館（企画交流課 学校見学担当） 令和2年版

TEL 055-262-1278 FAX 055-261-2632

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オリエンテーションは行えません。以下の内容や「当日の日程」「活動場所」については学校において児童生徒への指導徹底をお願いします。

【事前】

1. 「ティーチャーズクラブ申込書」「観覧料免除申請書」は出していただけたでしょうか？
 - ・ 教職員の引率の方は「ティーチャーズクラブ申込書」をファックスで送付していただくことにより、観覧料が免除されます。
 - ・ 教職員以外の引率の方は「観覧料免除申請書」の提出をお願い致します。
 - ・ 当博物館より毎年、年度始めにお配りしている『博物館活用事例集』からコピーするか、当博物館HPよりダウンロードしてお使いください。
 - ・ 見学の2週間前までの提出をお願いします。
 - ・ 免除申請を受け、「観覧料免除決定通知書」を郵送でお送りします。
 - ・ 観覧当日、「観覧料免除決定通知書」を忘れずにお持ちください。
2. 下記の館内での諸注意事項について事前指導をお願いします。（できましたら、児童生徒に事前配布する「しおり」等に明記していただけるとありがたいです。）また、見学当日は、引率の先生方も児童生徒に同行し、マナー面の指導をお願いします。
 - ・ 走ったり、大声を出したりせず、マナーを守って見学してください。
 - ・ マスクの着用や適切な距離の確保など感染症拡大防止策の徹底をお願いします。
 - ・ 水分補給はロビーでお願いします。
 - ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示品には手をふれないで見学してください。
 - ・ 筆記用具は、えんぴつかシャーペンのみとなっております。（消しゴムの使用はご遠慮ください。）
 - ・ ワークシートやクイズラリー（後述）をする場合は、探検バッグ（バインダー等）をご用意いただき、展示ガラスの上、壁、床等で書かないようにしてください。
3. 昼食を取られる場合は、博物館の庭をご使用ください。
 - ・ 水飲み場やあずま屋、トイレもあります。（博物館見取り図参照）
 - ・ 雨天時のみ館内の部屋を用意します。
 - ・ 遊具、ボール等の持ち込みはご遠慮ください。
 - ・ ごみは全てお持ち帰りください。
 - ・ 博物館は庭も含め、敷地内禁煙となっておりますので、ご協力ください。

【当日の流れ】（博物館到着時刻が予定より15分以上前後する場合は、ご一報ください。）

1. 駐車場でバスから降りる時・・・
 - 必要最低限の荷物（水筒、探検バッグ（バインダー等）・筆記用具、昼食を食べる場合はお弁当）をお願いします。博物館入り口に来る途中の外トイレで、できる限り先に用を済ませてください。（下見からのお帰りの際、位置の確認をお願いします。）
2. 受付
 - ・ 来館されたらメインエントランス（到着時間のみ手動で開けます）から入館ください。
 - ・ 子どもたちは集合せずに荷物整理のみ行い、活動場所へ移動してください。
 - ・ 先生お一人は受付に「観覧料免除決定通知書」をご提示いただき、当日の観覧者数・引率者数をお知らせください。受付で人数分のパンフレットと引率者シール（左胸貼り付け）をお渡しします。（パンフレットは、ガイドの妨げにならぬよう、先生方で預かっていただき、バス乗車後、又は、帰校後にお配りください。）
 - ・ 荷物は、水筒、探検バッグ（バインダー等）・筆記用具以外はバスにおいて御来館ください。お弁当を当館でお召し上がる場合は、お弁当もお持ち下さい。

3. 来館後の動き **【オリエンテーションは新型コロナウイルス感染症対策のため実施できません】**
- ・ はじめの会などは行えません。事前に学校での日程や館内でのルールの確認をお願いいたします。
 - ・ ロビーでは、整列せず、荷物を所定の場所に置きや筆記用具の用意など準備を済ませ、最初の活動場所へ移動して下さい。見学上の諸注意は到着までに学校から児童生徒にお願いいたします。

4. 見学（標準的な見学時間は1時間30分です。下の表の太線枠内を参照）
 一般的な見学の例を提示しますので、参考にした上で、ご要望がありましたらお願いします。
 （展示室の見取り図についてはパンフレットをご参照ください。）

⇒常設展，特別展は，3密防止のため，班などグループではなく，個人で見学するよう指導をお願いします。

所要時間		見学内容	
【休止中】		オリエンテーション	
		ガイドツアー（常設展示室の説明）	
		企画展ガイド	
		体験コーナーでの自由見学	
基本 の 活 動	30分	常設展 自由見学	
	30分	当館ワークシート（①から④はホームページよりダウンロード） ①初級ジオラマ編（1～2年）・②初級展示編（1～3年） ③中級ジオラマ編（3～5年）・④中級展示編（4～6年） ⑤クイズラリー（パンフレットの裏面・中高生） ※ クイズラリーの採点は、自己採点でお願いします。 （裏面の館内図で、採点場所をご確認ください。）	
	30分	お庭活動（クロスワード・クイズラリー・こすりだし）	
	30分	企画展 自由見学【開催期間中のみ】	
オ プ シ ョ ン	10～30分	映画視聴（視聴後地域に応じた説明可能）	人数制限 1回6名
	20分	紙芝居	人数制限 1回32名まで
	30～60分	紙工作	人数制限 1回32名まで

- ・ 「映像コーナー」では、3本のオリジナル映画を20分間隔で定時上映していますが、学校のご希望に応じた映画を、ご希望の時刻に上映することが可能です。
 「地方病」（約7分） 「水害」（約7分） 「戦争」（約10分）
- ・ 「企画展」・「紙芝居」については別紙を、ご参照ください。
- ・ 当館HPに、テーマ別ワークシート（小学校高学年以上向き）もアップされています。一つのテーマについて、深く追究させたい場合は、こちらをご活用ください。
- ・ 館内には制服を着た展示交流員が配置されています。ワークシートの答えがわからない場合などは、お気軽に声をかけてください。
- ・ オプションは当日の来館人数や職員配置状況によって、対応できないこともございますのでご了承ください。

【その他】

- ・ 展示室内と、映像コーナーは撮影禁止（裏面参照）となっております。見学当日に写真係をされる先生に確認をお願いします。
- ・ 見学当日の受付時に、先生方を対象としたアンケートをお渡しています。今後の博物館運営に生かしていきたいと思っておりますので、利用してみての感想や意見をお寄せください。（帰校後、1～2日のうちにFAX送信していただけるとありがたいです。）
- ・ 当博物館では、「子ども学芸員」という事業を行っております。常設展の家族招待状進呈の特典もありますので、できる限りお取り組みいただけると幸いです。

かいじあむワークシート①

初級

ジオラマ編

小 年 名前

ジオラマ（人形）は、江戸時代（約200年前）の甲斐の国（山梨県）の人々の生活の様子を表したものです。 このワークシートの①～⑬のジオラマをさがし、見つけられたら、（ ）に○をつけ、よく説明を読みましよう。（そこが一番、大事です！）	 ① 薪（ ） 電気やガスや石油のない時代は、山に木を採りに行き、燃料にしていた。	 ② 肥桶をかつぐ人（ ） 昔は、「うんち」や「おしっこ」を肥料にしており、肥桶で運んでいました。	 ③ 洗濯をする人（ ） 洗濯機も洗剤もない時代は、川で洗濯をしていました。
 ④ 井戸（ ） 昔は水道がなかったので、井戸を掘って、地下水をくみ上げていました。	 ⑤ お風呂（ ） 家の外にあり、木の湯船に木桶で水をくみ、薪を燃やして、お湯をわかしました。	 ⑥ 田植えをしている人（ ） 5月ごろ早乙女と呼ばれる女性が唄を唄いながら共同作業で行いました。	 ⑦ 水車小屋（ ） 水の力を利用し、杵を動かし、米や麦やそばの実などを粉にしました。
 ⑧ 天秤棒をかついでいる人（ ） 物を運ぶ道具です。両側でバランスを取りました。	 ⑨ 背負子をしょっている人（ ） 背負子とは、リュックサックのように背中で荷物を背負う道具です。	 ⑩ 肥だめ（ ） 肥料用の「うんち」や「おしっこ」を池のような場所にためておきました。	 ⑪ 狐（ ） 村境のような薄気味悪いところでは、狐に化かされると言われていました。（「しっぽ」が出ているよ！）
 ⑫ 蓑と笠をつけている人（ ） 雨ガッパのない時代は、蓑と笠で雨をしのぎました。	 ⑬ 綿の木（ ） 綿の実の中で、種を守る役割をしているのが綿です。紡いで糸を作りました。	 ⑭ 紙を作っている人（ ） 和紙は「楮」という木の皮を原料にして作られていました。	 ⑮ 火の見ばしご（ ） 火事が起こった時、登って鐘を鳴らし、人々に知らせました。最初に戻って、自己採点しよう！

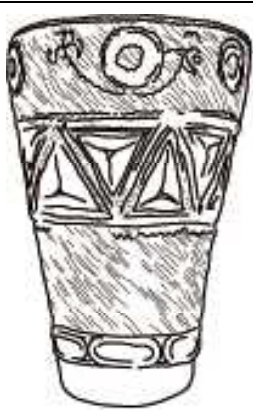
※ おまけの問題 次のものをさがしましょう。①犬5匹 ②猫3匹 ③猿2匹 ④とんぼ1匹 ⑤蛇1匹 ⑥うなぎ3匹

かいじあむワークシート② 初級 展示編

小 年 名前

山梨県立博物館には、昔の物がいっぱいあります。それぞれの問題の右側に縦書きで書いてあるのが、コーナー番号と、コーナー名ですので、立て看板の赤い矢印に従って進みましょう。①～⑮の展示物をさがし、見つけられたら、() に○をつけ、よく説明を読みましょう。(そこがイチバン大事です！)

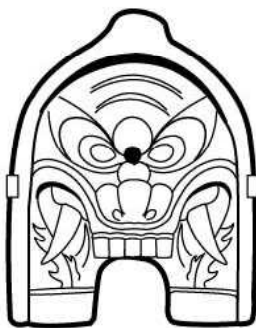
見つけられた問題は、
全15問中 問 でした！



① 自然の森の中で

① 縄文土器 ()

木の実を煮炊きしたり、保存したりするために使いました。今から、4500年くらい前のものです。



② 甲斐の誕生

② 鬼瓦 ()

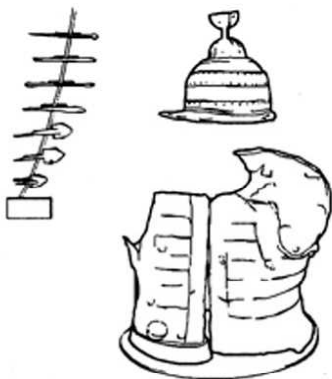
1250年くらいのお寺の屋根につけられていました。魔よけのために、こわい顔をしています。



② 甲斐の誕生

③ 木簡 (木の札) ()

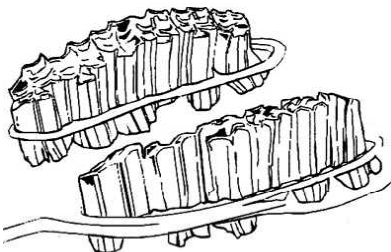
紙が貴重品だった時代は、木に字を書いて荷札などに使いました。



③ 甲斐の黒駒

④ 鎧・兜 ()

1500年前ころの身分の高い人のお墓から出てきた、鉄の鎧や兜です。



③ 甲斐の黒駒

⑤ 馬の歯 ()

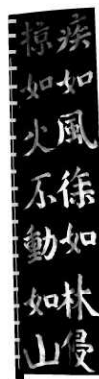
1600年前ころ、馬は中国から伝わりました。大きさは今のポニーくらいでした。



④ 水に取り組む

⑥ お祭りで使う人形 ()

洪水が来ないようにお祈りするお祭りで使われます。お祭りの中で、人形をあやつって踊りを演じます。

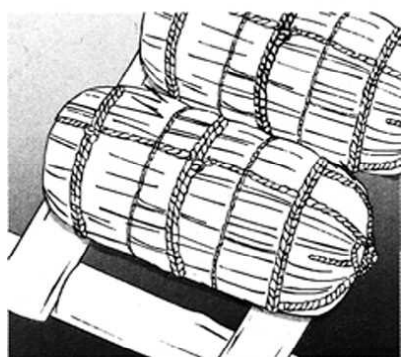


⑥ 甲斐を駆ける武士たち

⑦ 孫子の旗 ()

風林火山の旗とも呼ばれます。武田信玄の旗印でした。

裏面に続く →



⑦ 川を彩る高瀬舟

⑧ 米俵 ()

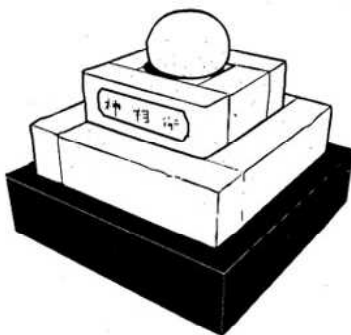
米俵1俵は約60kgです。大人の人が食べる、5ヶ月分のお米が入っていました。



⑮ 里に暮らす

⑨ 馬のわらじ ()

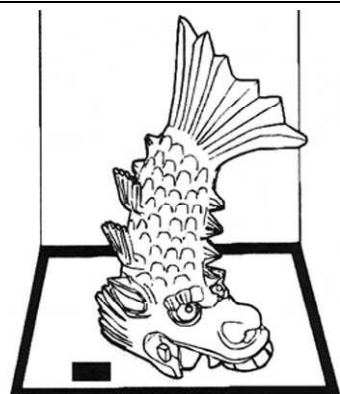
稲わらを編んで作った馬の靴です。



⑮ 里に暮らす

⑩ 道祖神 ()

村境や道を災いから守る神様です。主に小正月の際に、お祭りが行われます。



⑯ 城下町の賑わい

⑪ 金の鯨瓦 ()

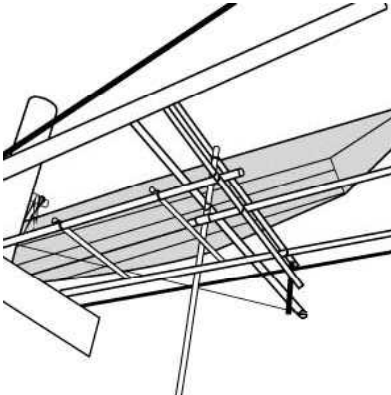
甲府城の城跡から発掘されました。鯨は海の生き物で、火事を防ぐおまじないの役目をしていました。



⑰ 明治40年の大水害

⑫ 蓄音機 ()

今のCDプレーヤーのような音楽をかける機械です。「レコード」というものをのせて音楽を聞きました。



⑰ 明治40年の大水害

⑬ 舟 ()

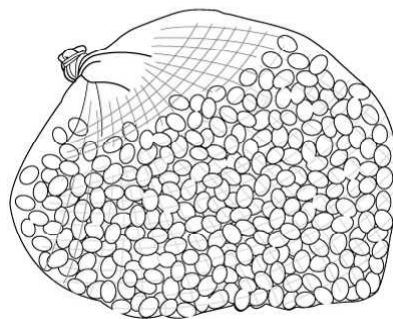
水害に備えて屋根の下に舟をつるした家もありました。実際の洪水の時には避難のために使いました。



体験工房 保存の現場

⑭ お蔵 ()

家の宝物などを火事や泥棒などから守るための、厚い土壁の建物です。



体験工房 重さの現場

⑮ 繭 ()

「蚕」という蛾の幼虫が糸を吐いて作ります。絹の原料です。最初に戻って、自己採点しよう！

かいじあむワークシート③ 中級 ジオラマ編

名前

ジオラマ（人形）は、江戸時代（約200年前）の甲斐の国（山梨県）の人々の生活の様子を表したものです。ワークシートの説明をよく読んで、次の表にあるジオラマをさがしてみましょう。

場所	問題番号	次のものをさがしてみましょう。	見つけられたら →
ムラ	1	かやぶき屋根の家 「茅」という草で屋根を作っていました。	
	2	薪 電気やガスや石油のない時代は、山に木を採りに行き燃料にしていました。	
	3	肥桶 昔は、「うんち」や「おしっこ」を肥料にしており、木の桶で運んでいました。	
	4	屋敷墓 お寺ではなく、個人の家の敷地にある、その家の先祖がまつられた墓です。	
	5	洗濯をする人 洗濯機も洗剤もない時代は、川で洗濯をしていました。	
	6	井戸 昔は水道がなかったので、井戸を掘って、地下水をくみ上げていました。	
	7	お風呂 家の外にあり、木の湯船に木桶で水をくみ、薪でお湯をわかしました。	
	8	屋敷神 家の守り神として、石や木で造られた小さなお社にまつられた神様です。	
	9	炭俵 暖房や煮炊きの燃料となる炭を、「わら」でくるんで保管しておきました。	
	10	蓆 稲わらなどを編んで作った敷物で、いろいろな目的に使いました。	
ノラ	11	煙草を吸っている人 昔は「煙管」という道具を使ってたばこを吸いました。	
	12	馬 田をたがやしたり、荷物を運んだり、人が乗ったりするのに、馬を使いました。	
	13	田植え 5月ころ早乙女と呼ばれる女性が唄を唄いながら共同作業で行いました。	
	14	水車小屋 水の力を利用し、杵を動かし、米や麦やそばの実などを粉にしました。	
	15	天秤棒 物を運ぶ道具です。両側でバランスを取りました。	
	16	背負子をしょっている人 リュックサックのように背中で荷物を背負う道具です。	
	17	肥だめ 肥料用の「うんち」や「おしっこ」を池のような場所にためておきました。	
	18	狐 村境のような薄気味悪いところでは、狐に化かされると言われていました。	
	19	蓑と笠をつけている人 雨ガッパのない時代は、蓑と笠で雨をしのぎました。	
	20	綿の木 綿の実の中で種を守る役割をしているのが綿です。紡いで糸を作りました。	
舟ヤマ	21	高瀬舟 富士川でお米や塩を運ぶのに使われた、底の浅い、細長い舟です。	
	22	紙を作っている人 和紙は「楮」という木の皮を原料にして作られていました。	
	23	筏に乗っている人 山で伐った木は筏に組んで運ばれました。	
	24	金を掘っている人 金は山奥の金山に穴を掘って、掘り出しました。	
城下町	25	道祖神祭りの様子 甲府城下町では、小正月の道祖神祭りが盛大に行われました。	
	26	初売りの様子 甲府城下町のお正月初売りは、夜中2時からにぎわっていました。	
	27	提灯 明かりの道具で、和紙と竹と木でできており、中にろうそくを立てました。	
	28	門松 正月に家の入口に立てる飾りですが、竹を添える場合が多くあります。	
	29	火の見ばし 火事が起こった時、登って鐘を鳴らし、人々に知らせました。	
	30	高札場 との様のおふれが書かれた木の札です。今で言えば伝言板です。	
		問題は全部で30問です。いくつ、自分で見つけられたかな？ →	

※ おまけの問題

次のものをさがしましょう。①犬5匹 ②猫3匹 ③猿2匹 ④とんぼ1匹 ⑤蛇1匹 ⑥うなぎ3匹

かいじあむワークシート④ 中級 展示編

名前

山梨県立博物館には、昔の物がいっぱいあります。立て看板の赤い矢印に従って進み、コーナー番号をヒントに、ワークシートの説明をよく読んで、次の表にある物をさがしてみましょう。

見つけられたら



コーナー番号	次のものをさがしてみましょう。(赤い矢印に沿って行くと見つかります)	○
1	縄文土器 木の実を煮炊きしたり、保存したりするために使いました。	
2	1250年前ごろのお寺の鬼瓦 甲斐国分寺というお寺の屋根についていました。	
2	甲斐の国のはんこ 今から1300年前ごろ、正式な文書に押されました。	
2	木簡(木の札) 紙が貴重品だった時代は、木に字を書いて荷札に使いました。	
3	1500年前ごろの鎧・兜 偉い人の墓から鉄の鎧や兜などが出土しました。	
3	1600年前ごろの馬の歯 馬は中国から伝わり、ポニーのような大きさでした。	
4	700年前ごろの堤防 櫓の木を編み合わせ、土手が削られるのを防ぎました。	
4	お祭りで使う人形 洪水が来ないようにお祈りするお祭りで使われます。	
6	武田信玄の肖像画 晴信と名乗っていた、若き日の信玄本人の肖像画です。	
6	楯無鎧 武田家の家宝の鎧で、菅田天神社の本物は国宝に指定されています。	
6	孫子の旗 風林火山の旗とも呼ばれます。信玄本陣の旗印として用いられました。	
6	川中島の合戦の屏風絵図 有名な信玄、謙信の一騎打ちをさがしてみましょう。	
7	米俵 米俵1俵は約60kgです。大人5ヶ月分のお米が入っていました。	
8	中国の昔のお金 400年前程までは日本でも中国のお金が使われていました。	
9	幕絵 甲府の城下町の道祖神祭りの時、祭りを華やかにするために使われました。	
11	甲府駅のフラットホーム 木造でした。「かふふ」とは何でしょう？	
11	機関車の写真 中央線が開通したころは、煙をはく蒸気機関車でした。	
12	甲州金 信玄の時代に金山の開発が進み、甲州金という金貨が造られました。	
12	大きな鋸 チェーンソーがない時代、大きな鋸で大木を切り出しました。	
15	馬のわらじ 稲わらを編んで作ったぞうりのようなもので、雪道ではかせました。	
15	道祖神 村境や道を災いから守る神様です。小正月にはお祭りが行われます。	
16	甲府城下絵図 全国的にも大規模な城で、別名「舞鶴城」とも呼ばれていました。	
16	甲府城の金の鯨瓦 甲府城の城跡から発掘されました。	
17	絹糸 「蚕」という蛾の幼虫が蛹になる時に作る繭から糸を取り出し作ります。	
19	蓄音機 今のCDプレーヤーのような音楽をかける機械です。	
19	洪水の時、避難に使った舟 水害に備えて屋根の下に舟をつるした家もありました。	
20	戦争時代の爆弾 66年前、日本とアメリカが戦争をした時、アメリカ軍の飛行機が日本全国(山梨にも)に「焼夷弾」という火事を起こさせる爆弾を落としました。	
20	戦争時代の学校の机・椅子 今の机・椅子と比べてみましょう。	
保存	お蔵 家の宝物などを火事や泥棒、光や熱から守るための、厚い土壁の建物です。	
重さ	繭 「蚕」という蛾の幼虫が糸をはいて作る白い殻のような物で絹の原料です。	
	問題は全部で30問です。いくつ、自分で見つけられたかな？ →	

博物館を訪れての学習 2

博物館に行ってみる（庭の活用）

県立博物館は、広い庭を有しています。学校利用では見学前後にお弁当を食べる等、楽しく過ごしています。また、庭の木々や植物を活用した学習活動を行う学校もあります。

- ・屋外にもトイレ、水飲み場等が設置してあります。また、あずま屋もありますので、ご利用ください。
- ・芝生の上なども自由にお使いください。ただしボールや遊具等の持ち込みはご遠慮ください。



【博物館の庭について】

約160種類、4万本の植栽が庭を彩っています。江戸時代以前より山梨県にあった植物を中心に植えてあります。昔から植物は自然環境や人間の生活に密接に結びついていました。季節ごとに変化する木々、植物にも目を向けてみてください。また庭の一角には畑があり、山梨ゆかりの作物を育てています。季節ごとの植物の観察活動、また展示との関わりなど、博物館での活動のひとつとしてご活用ください。





2020年度 かいじあむカレンダー

1 →開館日(午前9:00～午後5:00 最終入場は4:30)

2 →閉館日

3 →臨時開館日(//)

4 →臨時閉館日

年間開館日258日(休館日107日)

4月 卯月 April

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

昭和の日

2/28～5/21 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館

5月 皐月 May

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

憲法記念日 みどりの日 こどもの日 振替休日

6月 水無月 June

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月 文月 July

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

海の日 スポーツの日

6/17～9/7 「かいじあむ+ (プラス) ～常設展示パート2～」

8月 葉月 August

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

山の日

9月 長月 September

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

敬老の日 秋分の日
臨時閉館 臨時閉館 臨時閉館

10月 神無月 October

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月 霜月 November

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

文化の日

勤労感謝の日

10/24～12/7 「未来へ伝えたい 甲斐の国のたからもの～新指定文化財・収蔵品展～」

12月 師走 December

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

臨時閉館 臨時閉館

2021 1月 睦月 January

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

成人の日

臨時閉館 臨時閉館

1/2～2/23 「強請祈願とやまなしの雨乞い」

2月 如月 February

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

建国記念の日 臨時閉館

天皇誕生日

3月 弥生 March

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

春分の日

3/13～5/10 「生誕500年 武田信玄の生涯」

学校にしながら博物館を活用してみる 1

貸出教材（ミュージアム・キット）を活用してみる

1 電話で予約状況を確認し、仮予約をしてください。

すでに予約が入っている場合等、お断りすることがあります。仮予約は、貸し出し予定日の3か月前からおこなえます。

2 「借用申請書」をご提出ください。

申請書を、当館ホームページ上でダウンロードし、必要事項をご記入の上、ファックスで送付してください。（ファックス 055-261-2632）

※引き取りのための来館時間を電話などでお知らせください。

3 ミュージアム・キットをご活用ください。

4 終了後、ご返却ください。

期日までにご返却ください。その際、同梱の資料活用報告書にご記入ください。また授業案や指導案、授業内で使ったワークシート等がありましたら、ご提供ください。

■その他

○費用は一切かかりません。

（但し、宅配便等を利用する場合は、送料のご負担をお願いします。）

○試着できるキットは身長150cmサイズでつくられていますが、和服ですのでかなり融通がききます。ただし、鎧兜（よろいかぶと）についてはもう少し小さいサイズです。

○キット全部もしくは一部をなくしてしまったり、壊してしまったりした場合、ただちにご連絡ください。

※今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、接触を伴うミュージアムキットの貸し出しを中止しております。ご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

【授業用パワーポイントデータ】

出前授業で使用するパワーポイントのデータをダイジェスト版でまとめたものです。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、博物館に来館できない、もしくは出前授業を受講できない場合にご利用ください。

（※利用したい授業の単元や内容をご相談ください。）

【甲斐国関係の古代木簡レプリカセット】

文字、寸法、風合い、キズまでもが、本物そっくりに複製された資料です。博物館展覧会複製資料と同じ規格で作ってあります。展示室では見られない裏面に描かれた文字や絵まで手にとって見るができます。

（解説資料付）



【石臼（いしうす）】

もちろん実際に使用できます。教材用として使用していますので、食用にはご遠慮頂いております。

（※昔の道具体験の出前授業も行います。）



【昔の暮らし電子写真集DVD】

内田宏氏の撮影による昭和30年代から40年代の農村の生活に関する写真です。当時の養蚕、農作業、暮らしぶりに関する写真が納められています。



【博物館関連書籍】

博物館図録や研究紀要、過去に開催した特別展などの図録等を貸し出しします。

貸出し可能な書籍

風林火山

やまなしはじめて物語

祈りのかたちー甲斐の信仰ー

北斎と広重ふたりの富嶽三十六景等

他多数貸出可能



貸出不可

ミュージアムキット（貸出用教材）メニュー②

令和2年7月現在

【戦国時代キット】

戦国時代の鎧兜、太刀、火縄銃によるキット。鎧兜は試着することができます。



貸出不可



貸出不可

【江戸時代キット】

江戸時代の武士の服装(袴)、太刀(大小)、町人の服装(男女各1)、寺子屋本によるキット。武士の服装、町人の服装は試着することができます。



【旅姿キット】

菅笠(男女各1)、旅の服装、柳行李によるキットです。旅の服装は試着することができます。



貸出不可

【オリジナル歴史紙芝居】（※平成23年度より追加されました。）

①「武田信玄 ～風の如く、火の如く～」



第1話 誕生～青年期 父と子

第2話 家督相続 若き甲斐国主の日々

第3話 川中島篇 VS 謙信

貸出不可

②「江戸時代 奮起一発！ 大工の仕事」

③「高度成長期 洗濯機物語

～タビーの大冒険～

学校にしながら博物館を活用してみる 2

出前授業（講師派遣）を活用してみる

1 まずは電話で仮予約をお願いします。

希望する内容、日時、対象学年などをお知らせください。講師の派遣が可能かどうか博物館で調整をいたします。できるだけ**希望日の1ヶ月前まで**に、ご連絡いただけるとありがたいです。

2 「出前授業講師派遣申請書」をご提出ください。

申請書を当館ホームページ上でダウンロードし、必要事項を記入の上、職印を押印し、郵送してください。（提出期限は、実施日の1週間前までです。）

3 事前に確認しておきたいことなどがあれば、電話でどうぞ。

4 出前授業当日

内容によりパワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを使って授業をすることがあります。その場合お手数ですがパソコンや大型テレビまたは、プロジェクターやスクリーンなどのご準備をお願いいたします。また、「出前授業を活用してのアンケート」を渡しますので、感想や改善点をご記入の上、FAX送信をお願いします。

5 その他

○費用は一切かかりません。

○担当職員のスケジュールもありますので、あらかじめ授業実施日の候補をなるべく複数あげていただけるとありがたいです。また、実施予定日の1ヶ月前までに連絡をいただくと、スケジュールの調整がつけやすいです。（どうしても調整がつかない場合お断りする場合もございます。）

○すべての校種・学年で活用いただけます。

○博物館見学の事前や事後に出前授業を位置づけると効果的です。日程等を調整いたしますので、ご連絡ください。

県立博物館では、博物館職員が学校に訪問して 「出前授業」を行っています！

下記一覧表は、出前授業のレパートリーです。要請があれば、小・中・高・特別支援、どの校種、どの学年にも対応いたします。また、下記以外のテーマについても、できるだけ要望に応じますので、お問い合わせください。

なお、授業参観、PTA親子活動、校内研究会、教協研修会などで、ご利用いただくことも可能です。

(令和2年度にテーマ・内容の更新を行いました)

テーマ名	内容	教科等
50～60年前の暮らし	生活用具を使ってみよう(水汲み、洗濯、石うす) 糸から着物へ(養蚕と織物)	社会 家庭 総合的な学習の時間
山梨と水	信玄堤 富士川舟運 明治40年の水害 水にまつわる祭りと行事	社会 総合的な学習の時間
富士山	富士山の信仰 富士山の芸術 描かれた富士山 富士山の成り立ち 富士山と雪代災害	社会 理科 図画工作 美術 総合的な学習の時間
山梨と鎌倉 ※修学旅行に対応	山梨と鎌倉(歴史編) 山梨と鎌倉(寺社と仏像編) 絵からみる江戸時代の旅	社会 図画工作 美術 総合的な学習の時間
山梨を知る ※県内巡りに対応	山梨の自然と伝統工芸品 山梨の寺社 山梨の有形文化財 山梨の織物 旅日記に書かれた江戸時代の山梨 浮世絵に描かれた山梨の風景 甲州道中図屏風に描かれた山梨の風物 山梨の祭りと年中行事 山梨の道祖神 山梨の化石 山梨の地名	社会 理科 図画工作 美術 総合的な学習の時間
古文書を読んでみよう	何て書いてある？(くずし字クイズ) 往来物(江戸時代の教科書)を読んでみよう くずし字で自分の名前を書いてみよう 仮名文字を書いてみよう 古典文学を読んでみよう	国語 社会 総合的な学習の時間

武田信玄	武田信玄について 描かれた武田信玄	社会 美術 総合的な学習の時間
甲府城と城下町	甲府城は誰の城？ 写真で見る甲府城今むかし 甲府城下町のなりたち 甲府城下町のくらし 城下町の道祖神祭り 歌川広重と幕絵	社会 総合的な学習の時間
戦争と災害	甲府空襲 大月空襲 青い目の人形 山梨と地震災害 日本住血吸虫症 (明治40年の水害) (富士山と雪代災害)	社会 理科 総合的な学習の時間
博物館の仕事	文化財保存と博物館の役割 学芸員の仕事 展覧会のつくりかた	社会 総合的な学習の時間
その他	和算に挑戦 検地をしてみよう	算数 数学 社会 総合的な学習の時間

歴史紙芝居出前上演テーマ一覧

下記一覧は、小学生対象の歴史紙芝居のレパートリーです。出前授業同様、要請があれば、お伺いして上演します。業前の読書タイムや、図書の時間などでご活用ください。

テーマ名（各15分程度）	対象・教科・関連等
「十二支の話」	低学年向き・12月、1月が効果的
「高度成長期 洗濯機物語」	3年生、社会科「昔の道具とくらし」に関連
「江戸時代 奮起一発！大工の仕事」	3年生、社会科「昔の道具とくらし」・キャリア教育に関連
「武田信玄」(3部作・1部ごとの上演可)	6年生、社会科の歴史・郷土学習に関連

(出前授業実践例 1)

富士見小学校 出前授業 **3年** 「昔の道具とくらし」

対象 : 富士見小学校 3年生 57名
担当教諭: 小澤 千恵美 先生 ・ 川村 萌 先生

日時 : 令和元年12月5日(木) (14:00～15:30)

担当 : 姫野教育主事・村田教育主事(計2名)

教科・単元 : 社会科「昔の道具とくらし」

目標 : 昔のくらしの様子の写真を見たり、昔の道具を体験したりして、地域の人々のくらしがどのように変わってきたのかについて関心をもち、知ろうとしている。

持参品 : 石臼・天秤棒・バケツ・洗濯板・たらい・パソコン

学校準備品: ①椅子(必要に応じて)・②お米(各クラス1合)・③ストップウォッチ
④大型テレビまたは「スクリーン+プロジェクター」(いずれもパソコンを接続したもの)※CDを差し込んで使用します ⑤石臼運搬用のキャスター
⑥ブルーシート(石臼・洗濯板用) ⑦洗ってみたい布(児童各自持参)
⑧石けん(各クラス) ⑨紙皿(各クラス)

タイムテーブル

14:00～14:25(25分) ※1・2組合同	人々のくらしの移り変わりについてのお話(画像を交えて)
14:30～15:00(30分) ※1組の体験	○昔の道具体験 石臼・天秤棒・洗濯板 ○3ローテーションで行う。 ※移動も含めて30分間です。 ※学校の先生は、時間の管理・移動指示をお願いします。
15:00～15:30(30分) ※2組の体験	○昔の道具体験 石臼・天秤棒・洗濯板 ○3ローテーションで行う。 ※移動も含めて30分間です。 ※学校の先生は、時間の管理・移動指示をお願いします。

児童の感想

- 今と比べて全然違うくらしに驚きました。昔の道具や服などいろいろなことが違いました。昔の人は、服をおさがりにしていたことや、ヤギを飼っていたことなど、いろいろなことを学べてよかったです。
- 私はレトロが載っている本などが好きで読んでいたけど、実物を見て、やって、ものすごく昔は大変だったんだと思いました。こんなことを子どもが手伝うなんて、自分は毎日できないなと思いました。
- 石うすは、一回止まってしまうと動かなくて、石うすひきを一人でやるととっても大変だったと思います。でも、手でゆっくりひくと、お米が粉になっていてびっくりしました。

学習の成果（児童のレポートからの抜粋）

めあて 『昔の道具学習会』で学んだことをふり返ろう。

1. 昔のくらしや道具についてのお話を聞いて分かったことや思ったこと

昔は家の庭に、草をかいて庭の草かりをしり、ひらう
を作っていたということをはじめとして、すこ
いなと思えました。

2. 石うすひきの体けんをして分かったことや思ったこと

•さいしよは、かたくてむくのがたはいいんだ、たはけど、リズム
にのってやたらやりやすくなった。

3. せんたく板でのせんたく体けんをして分かったことや思ったこと

昔のせけんは、今とちがって長方形のえきたいやこなのせけんじゃなかった。

4. 天びんぼうでの水はこび体けんをして分かったことや思ったこと

昔の人はお風呂に入るために400Lも水をくまなきゃ
いけなくて、たいへんだったと思います。

- 5.『昔の道県学習会』の全体を通して、分かったことや思ったこと

昔の人は、水はこひやせんたくなでいろいろなことを、子どももわたり、水はこひは川へ行ってくだり、昔は、いろいろなことがたいていなんたて、おかつた。

めあて 『昔の道具学習会』で学んだことをふり返ろう。

1. 昔のくらしや道具についてのお話を聞いて分かったことや思ったこと

今のくらは、せんたきやスーズをつかてい
け。昔のくらは、 こうゆうせんたくした、をつかて
あらえていることが分りました。あと、 こうゆう
いろいろ、とうのをつかうてあたたまっていたのでも分
りました。あと昔は川にいて水をくんでまたこ
とが分った。今はしあわせなな、と思いました。

2. 石うすひきの体けんをして分かったことや思ったこと

昔の人たちは、石うすを1日時間もやっていたとい
人だなぁーと思いました。力もいるから体もなくなっちゃう
うだなぁーと思った。

3. せんたく板でのせんたく体験をして分かったことや思ったこと

せうじをピンリとのはずししかいたくな。ちうがは今はちあわせたな。ーと思った。あと、せっけんかいぬるぬるつるつるするからきょうつけて、体けんした。

4. 天びんぼうでの水はこび体けんをして分かったことや思ったこと

昔の人はちたいてんたいな一と思ひました。王聖曲
は首がいたくなるしあひからて"すおろろ
にはいるときは400L あんてあつてそれを1000L

- 5、『昔の道具学習会』の全体を通して、分かったことや思ったこと

昔のたいけんをして、昔をたいてんだな
と思った。昔の人は、こんなふうに暮らした人、
なぞと思ふ。

めあて 『昔の道具学習会』で学んだことをふり返ろう。

1. 昔のくらしや道具についてのお話を聞いて分かったことや思ったこと

今と昔のくらは、全然ちがうと思いました。

・家やきをかうと、やきのあしをのめたり、くさしたや
れたりに、いろいろないいことがあるので、わたし
もかてたいです。

2. 石うすひきの体けんをして分かったことや思ったこと

一回止まってしまうと、うきがなく、もうすぐきを、1人で
やるよ、と、そそかしいで、うきなく、また、と思い、

3. せんたく板でのせんたく体けんをして分かったことや思ったこと

冬の中でやると争かたおこしてしまうそうだと思います。
せけんもちかくて今のほうがべんりだと思います。

4. 天びん/ぼうでの水はこび/体けんをして分かったことや思ったこと

かたがいたしなうして、とでもひくりにしたけど、皆
の人はいつかやていたと思うと、そのほうがひくりにしました

5. 『昔の道具学習会』の全体を通して、分かったことや思ったこと

昔は、服もちがくて、大へんたと思うけど、今くらべてみると、昔のほうがすごいわへんたと思いました。わたしは、今の人が、昔の人にそっくりみたいですね。

めあて 『昔の道具学習会』で学んだことをふり返ろう。

1. 昔のくらしや道具についてのお話を聞いて分かったことや思ったこと

いまくらへアせんせんちからうくらしにおおきま
した。むかしのとくら、くくなどいろいろなことがい
ました。むかしの人、くくをさがりにしていたこと
や、むかしは、やきをわけていたことなど、いろいろなこと
を、まなへてよかったです。

2. 石うすひきの体けんをして分かったことや思ったこと

思っていたより、両うすひきかまわすのかづたいてんでした。
こめをつぶすのもたのしかたです。つぶしたこめは、すこしザラ
ザラしていました。

3. せんたく板でのせんたく体けんをして分かったことや思ったこと

むかしはせんたくより、今のせんたくのほうが、かんたんでは
した。せんたく木反は、せむぎとホッホッホしていました。せむぎ
んもいまとはちがうておまかっではなとしかがたあは、しりとり

4. 天びんぼうでの水はこび体けんをして分かったことや思ったこと

てんびんほうでは、ほうのほうか、まん中か、よくて、はじ、こ
ほ、か、で、す。お、水、が、2L、は、い、て、り、う、ほう、あ、わ、せ、て
4L、の、で、い、と、も、お、も、た、で、す。ほう、あ、わ、せ、る、と、い、と、も、
お、ま、い、の、で、い、て、り、う、ほう、あ、わ、せ、る、の、水、は、こ、い、と、も、100、回、

5. 昔の道見学習会
はすなわち、分かったことや思ったことなりました。

むかしの人は、今よりよくうしろしていたことがわかりました。
むかしは、すいどうがなかったのて、天むんほうで、ほこりの
は、てでたいてんそうでした。むかしの人も今みたくに
すいどうをつかえたらいいなと思いました。

(出前授業実践例2)

境川小学校 出前授業 **5年** 「修学旅行事前学習」

対象 : 境川小学校 5年生 26名(場所:5年1組教室)
担当教諭: 加賀美 澄江 先生

日時 : 令和2年2月13日(木) (10:55~12:30)

担当 : 村田教育主事・姫野教育主事(2名)

教科・単元 : 総合的な学習の時間 「鎌倉について調べよう」

目標 : ・鎌倉の歴史を知り、山梨と鎌倉の関係について理解を深める。
・修学旅行へ向けての学習の過程において、課題の解決に必要な知識を身に付け、学習意欲を高める。

持参品 : CDデータ・鎌倉の絵地図(配付用)・カード(掲示用)・その他の教材

学校準備品 : パソコン(CDが使用できるもの)
大型テレビまたは「スクリーン+・プロジェクター」
※できましたら、事前に学校のパソコンをテレビまたはプロジェクターに接続しておいていただけるとありがたいです。

タイムテーブル

時 間 帯	学 習 内 容
10:55~11:40(45分)	天皇・貴族中心の世の中から武士の世の中への移りかわりについて(歴史の話)
11:40~11:45(5分)	休憩
11:45~12:25(40分)	鎌倉の旧跡・名所等の見どころの解説等 (鎌倉の絵地図に○をつけていきます)
12:25~12:30(5分)	学習のまとめ(感想発表等)

※授業開始と終了の挨拶は、担任の先生の進行でお願いします。
※後半に絵地図に鉛筆で記入していきますので、児童に筆記用具を用意させてください。
※黒板とチョーク、またはホワイトボードとマジックをご用意ください。

児童の感想

○歴史のことがいろいろと知れてとてもよかった。修学旅行に行くのがとても楽しみになった。
○鎌倉のことがよく分かった。修学旅行の事前学習で教えてもらったことを見てきたいです。大仏の高さと重さは予想以上に大きくてびっくりしました。

鎌倉歷史新聞

鎌倉の歴史について

歴史は、^{2月13日}に博物館のなかで、^{きざく}鎌倉
者、現代まで3つの時代がありまし
た。1つは、^{きざく}室町時代とした時代を
す。今から八百三十年前です。きざく
は、^{ひきまゆ}お、^{きざく}勘黒をしていました。
おきまゆは、まゆを、てすみで、きざく
ことです。それはおし、れのため、に、
ていたそうです。お勘黒は、^{きざく}お、
てぬることです。それはおし、を、予
うするため、と、おし、れのため、に、
いたそうです。

2つ目の時代は、武士を中心とした時
代です。今から八百三十年から百五十
年前です。きざくは、武士よりも、えら
うな、そう、です。武士たちの服、^{きざく}う、
よろい、^{きざく}かん、^{きざく}なり、^{きざく}弓矢、^{きざく}弓、^{きざく}を、^{きざく}した、^{きざく}きざく

と武士の服そうは、**源氏**をいうです。
その時代の百姓を中心とした時代です。今から百五十年前から現代にかけてです。
私は今までに、3つの時代があつたことに気づきました。はやく修学旅行に行きたくなりました。

平氏と**源氏**について
平氏の棟梁は**平清盛**、**源氏**の棟梁は**源頼朝**でした。初めは**平氏**が強く、たてすが一八五年に壇の浦今の山口県で**平氏**が滅びました。そして**源氏**源頼朝が鎌倉幕府を開きました。そして**源氏**の有り神として**源頼朝**が造営したのが鶴岡八幡宮です。
また運動会などで赤白になつたのは**平氏**を表す色が赤で**源氏**を表す色が白だ、だからです。
他にも鶴岡八幡宮には平家池と源氏池があります。

鎌倉新聞

鎌倉につい

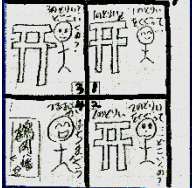
てゝい
鎌倉の見所はたくや
んあります。今回はず
の中から午つの事をさ
うかいしたいと思いま
す。
一つ目は切通してす
切通しというのは神奈
川県は山と海に囲まれ
ているので攻めてここ
れませぬ。しかば神奈
川から外に行くときに
通るためにつくつたを
のだからです。守力強
く二つ目は三つの鳥居
についでです。



大仏の絵
(注: 下段です)

3つの鳥居とは、鶴岡八幡宮に行く道にある鳥居です。一の鳥居はいくぐりで二の鳥居はこまいぬが2匹います。右のいぬはあの口で同形おどろを表しています。北ういオンです。左のこまいぬはうんの口、舞勢さん、うを表しています。兎角のあぶ大です。三の鳥居はくぐれば八幡宮の境内なんです。うです。う目は大仏です。

4コママンガ



平家池には鳥がナツ、(死を)
表しているそうぞす
源氏池には鳥がナツ、あるそ
うぞす。(産を)表している
そうぞす

鎌倉の歴史を知ろう!!

鎌倉の
みどころ
新聞

を語ります。
そのころの時代では、さぞか政治
の中心となっていました。
さぞくの特権を、お黒墨服くろくみぶくに、かかむり
です。が、さぞの年より、さぞの年ほど前には
武士の方が強くなり、政治の
中心は、武士へと変わりました。
次に、源氏と平氏について話します。
源氏と平氏ですが、最初、戦いにおい
て平氏の方がやうせいでした。です
が、源氏が鎌倉に幕府をたてた
のです。そして、この戦は源氏が勝利
しました。
なぜ、鎌倉に幕府をひかいて、（ついでに）
逆点できたかという、鎌倉は戦
にあつた土地だったからです。

鎌倉かなせ戦にあてゐる土地か

鎌倉は、三友山に於てまゐつてゐる所が、です。一方が海に於てまゐつてゐる所が、です。こゝの土地だと、山からせめて、海からせめて、相手の体力がけずられる。海からせめて、りれても、すぐにはわかつたので、攻められにくいのです。こゝの土地で、源氏が幕府をひらいた。その地、勝利につなげたのなと思ひました。

鎌倉のまゝで、
私は、鎌倉についで、いゝた甲下、番衆になた事をやめ、いゝます。鶴ヶ岡へ、播磨の平家池と源氏の関係です。島に教に在日してゐる。……

平氏と4元、源氏止る(彦)といふ、つになつてゐます。といふ、これを考えた頼朝がすでといと思ひました。

鎌倉の歴史新聞

歷史

今から八百三十 年はご前まで天皇 やぎどくを中心と しな時代をしな をそつて上にかい なり、お齒黒をし てし、くを将、衣 りしていたそうむ す、	今から八百三十 年はご前まで天皇 やぎどくを中心と しな時代をしな をそつて上にかい なり、お齒黒をし てし、くを将、衣 りしていたそうむ す、
武 士を中心としな時 代にしな。武士は よういと着て弓や 矢、刀などいろい りに強いから弟に	武 士を中心としな時 代にしな。武士は よういと着て弓や 矢、刀などいろい りに強いから弟に

[illegible]

博物館を訪れての学習 3

職場体験学習・インターンシップの実習

山梨の歴史を後世に伝える博物館の仕事に接する中で、山梨についてより深く知っていただくとともに、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせる」というキャリア教育の観点からも、博物館では中高生の職場体験学習・インターンシップを受け入れています。

○受け入れ期間

随時受け入れますが、博物館開館日、開館時間に限ります。（火曜休館なのでご注意ください。）また、博物館の行事が重なっていたり、混雑が予想されたりする時期にはお断りする場合があります。

○実習日数

基本的に2日間（1日、3日間も検討します。ご相談ください。）

○人数

2～5名程度のグループ（人数についてもご相談ください）

○体験内容

- ・山梨県立博物館の歩み・役割についての説明
- ・博物館で働いている人たち（学芸員など）の仕事についての説明
- ・館内見学（展示室・研究室・資料収蔵庫など）
- ・業務体験（改札業務・利用者案内・ミュージアムショップ・資料整理
アンケート集計・畑仕事・事務補助など）

※他にもご希望があれば、ご相談ください。

○その他

- ・保護者を通して受け入れの可否を確認する場合でも、申し込みは学校が一括して行ってください。
- ・申し込みが重なる場合、他の学校のグループと一緒に実習を行うこともありますが、ご了承ください。
- ・甲府駅、石和駅から当館を通る路線バスがありますので、生徒だけでも通うことができます。

かいじあむティーチャーズクラブとは…

山梨県立博物館では、学校の教育課程の中で博物館を有効に活用できるよう、活用事例の開発及び教職員の博物館での学習機会を確保するため、ティーチャーズクラブを運営しています。

【活動の内容】

博学連携の推進という立場に立ち、会員の先生方が博物館を見学し、学校の授業や博物館を利用した校外学習の際の有効な博物館活用方法を探ることで、県内の児童生徒の郷土学習が推進されることを目的としています。会員の先生方には、都合のつく時間にいつでも博物館に来て、博物館の活用についてイメージをふくらませていただけます。また、年に2回の研究会や教育センターとの共催による研修会もご案内いたします。



【たとえばどんな活用方法があるの？】

- 博物館を利用した有効な学習方法の情報を得る。
- 博物館の活用の幅を広げ、どのような利用方法があるか探る。
- 博物館の貸し出し用の教材・教具（ミュージアム・キット）を活用してみる。
- ビデオ教材やデジタル資料を活用してみる。
- 出前授業を活用してみる。
- その他、博物館を授業で生かすアイデアを企画・実践する。

※博物館のホームページからワークシートをダウンロードできます。

【会員特典】

- 県内の学校（小中高特）、教育機関にお勤めの教職員の方ならどなたでも会員になれます。
- 会員証を発行し、それを提示いただくと県立博物館の常設展示、企画展示を何度でも無料で視察いただけます。研究はもちろんですが、気軽に展示などをご覧ください。（もちろん年会費や入会費はありません）
- 博物館には授業で活用できるどんな資料があるのか、どんな活用方法があるのか、そんな情報を得ることができます。お気軽にご入会ください。
- 年2回開催予定の研究会については、ご都合のつく範囲でご参加ください。

【会員になるには】

応募用紙に必要事項をご記入の上、郵送やFAX等で県立博物館までお送りください。（〒406-0801 笛吹市御坂町成田 1501-1 FAX 055-261-2632）

※ 応募用紙は当館ホームページ（<http://www.museum.pref.yamanashi.jp>）にあります。

かいじあむティーチャーズ・クラブ 設 置 要 綱

第1条（目 的）山梨県立博物館では、学校の教育課程の中で博物館を有効に活用するため、教職員による研究・研修を行う『かいじあむティーチャーズクラブ』（以下、クラブと呼ぶ）を置く。

第2条（会 員）県内の学校（小中高特）ならびに教育機関に所属する教職員は、クラブの会員になることができる。（別添申込書）

第3条（活 動）クラブ会員は博物館を活用した学習・活動に関する情報を得て、教育実践に生かす取り組みをする。取り組みは個人でもグループでも行える。

第4条（会 費）クラブの会費（入会費・年会費とも）は無料とする。

第5条（事務局）クラブの事務局は博物館におき、その事務を企画交流課が担当する。

第6条（研究・研修への支援）会員に研究や実践を効果的に進めてもらうために、以下のような支援を行う。

- 博物館の資料を授業で活用する際の助言・支援
- ミュージアムキットなどの優先使用
- 常設展示・企画展示観覧料の免除

附則

この要綱は平成18年7月28日から施行する。

平成24年6月7日一部改定

この用紙をコピーしてお使いください。郵送・ファックス等
でお送りください。

山梨県立博物館 企画交流課 ティーチャーズ・クラブ 担当

〒406-0801 笛吹市御坂町成田 1501-1

電話番号 055-261-2631 ファックス 055-261-2632

ここには何も書かないでください

受付日	小	中	高特	

かいじあむティーチャーズ・クラブ応募用紙

年 月 日提出

	(ふりがな)
お名前	性別 (男・女)
所属 (学校名等)	

県立博物館を活用して実践してみたいアイデアがありましたらお書きください。

ティーチャーズ・クラブに対してのご意見ご要望等ありましたら自由にお書きください。

子ども学芸員事業のご案内

①子ども学芸員ってどういうもの？

学校で山梨県立博物館を見学したり、出前授業を受講したりした際、学習の成果としてレポートをご提出いただくと、児童生徒を当館の子ども学芸員に認定します。子ども学芸員には、認定証と常設展無料招待状（ご家族様分）を学校をとおしてお渡しします。

来館を重ねるごとにポイントが増し、子ども学芸員のグレードが初級→中級→上級とアップしていきます。

②目的は？

子ども達に山梨県の歴史・文化についてより深く知ってもらい、山梨県民として山梨の自然や人々に対する興味や関心の幅を広げてもらうことを目的としています。

③学習の成果（レポート）は次のようなものが考えられます。

- 見学の際に使ったワークシート（当館のものでも学校独自のものでもOK）
 - 事後学習としてまとめた博物館見学の学習感想等（国語や総合の学習とタイアップした場合を除き、「お礼の手紙」ではないものが望ましいです。）
 - 見学の絵日記
 - 当館の見学を題材にした絵画作品等
- ※全員が取り組んでいれば、代表レポート数点の提出をもって、全員を認定します。（その際の提出レポートはコピーにしてください。）

④参加対象は？

山梨県内の小・中・高・支援学校の児童生徒

【レポート送付・お問い合わせ先】

山梨県立博物館 企画交流課 子ども学芸員担当
〒 406-0801 笛吹市御坂町成田 1501-1
電話 055-262-1278
FAX 055-261-2632

「山梨の未来を描こう」絵画作品応募について

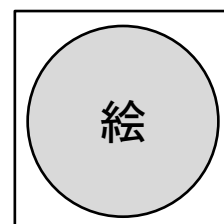
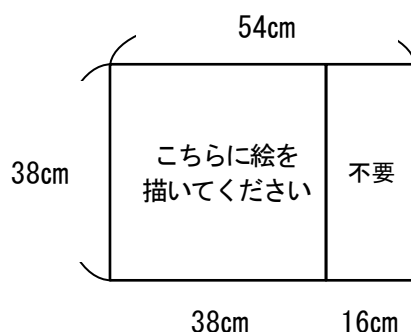
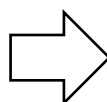
○山梨県立博物館では、「山梨の未来を描こう」というテーマで作品を募集しています。わたしたちが住んでいるこの山梨の未来に残したい自慢や魅力、大好きな山梨の未来を想像した作品を子どもたちに描いてもらう絵画作品を募集し、展示の一部として活用していきます。応募された全作品を展示しますので、ふるってご応募ください。

【絵画作品募集の流れ】

- 6月下旬 県内小中学校に電子メールにて募集要項を送付。各校の夏休み課題一覧に掲載をお願いします。
図工・美術・社会・総合等の授業で制作したものでも結構です。
- 夏休み期間中 各家庭にて、児童生徒の取り組み。
- 9月末 作品応募締め切り。（学校ごとの送付をお願いします。）
- 12月下旬 博物館に展示。（全応募作品を展示します。）
応募数により期間ごと何回かに分けて展示する場合があります。
展示日程などは、事前に学校を通して、応募者にお知らせします。

【応募に際しご注意いただきたいこと】

- 四つ切りの画用紙（38cm×54cm）を38cm角の正方形に切ったものに描いてください。
（展示の窓枠の円の直径は、35cmです。）
- 画材は、水彩、クレヨン、クレパスです。
（色鉛筆・コンピュータ画は不可）
- 作品の裏に、学校名、学年、氏名（ふりがな）を明記してください。
- 作品は折らないでください。
- 応募作品を展示する際、「円い窓枠」（右図参照）に入れて展示します。画用紙の隅に描いたものは枠に隠れて見えないことがありますので、ご注意ください。
- 詳細は6月下旬に送付した「募集要項」でご確認ください。



展示の様子



【その他】

- 応募いただいた全児童・生徒に、山梨県立博物館の常設展の家族招待券を進呈します。
- 現在、平成31年・令和元年度の応募作品を期間ごと順次展示しています。また、当館ホームページで応募作品の縮小版を公開していますので、あわせてご覧ください。
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館（令和2年2月28～5月21日）により、展示期間が一部変更になっております。

実践事例の紹介

かいじあむティーチャーズクラブ実践発表資料①

平成 31 年度 竜王西小学校の博学連携活動について

甲斐市立竜王西小学校

4 年担任 有泉 幸枝

1 本年度の博学連携活動の経緯

本校の 4 年生は、毎年、秋の校外学習で山梨県立博物館と伝統工芸（印伝屋）の見学を行っています。また、この地域には御幸祭りが昔から伝わり、お祭りのある 4 月 15 日には、お祭りに参加しやすいように、学校は半日となるほど、伝統的な地域のお祭りとして子ども達にも親しまれています。そこで、本校では毎年、博物館からの出前授業「信玄堤」をお願いし、社会科「昔から今へと続くまちづくり」の学習を深めています。

釜無川沿いに位置する本校では、本年度から水害対応避難訓練が年間行事予定の中に加わりました。4 月 15 日（月）10:30～10:45 に行われたこの水害対応避難訓練は、「水害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合の避難の仕方を身に付ける」「災害から生命を守り、避難の実践的な態度を養う」「担任の指示に従い、落ち着いて行動する」という目的で、児童や職員が 2 階以上に避難をしました。この訓練で子ども達は、河川の氾濫の恐れがある時は、甲斐市より避難準備・避難開始が発令されるので、指示に従って行動するという学習をしました。

また 4 年生は、1 学期の総合の学習で、「環境にいいことを考えよう」というテーマの基で、調べ学習を進め、地球環境の変化（地球温暖化）についても学びます。社会科でも、消防の仕事の中で、「防災計画」や「防災訓練」「ハザードマップ」などについても学びます。

最近の水災害として、岡山県倉敷市真備町（H30）の水災害や茨城県常総市（H27）の水災害が記憶にあります。地球温暖化から発生するといわれている水災害への見直しとして、各自治体では、ハザードマップの見直しや防災対策の見直し、災害時での自助共助の対応について学習が進められています。

これらを受けて、H31 年度の竜王西小学校 4 年では、4 月の当初、学年 PTA 役員会において、親子で地域の水災害について学ぶことを保護者に提案し、博物館の出前講座「明治 40 年の水災害」で、地域の水害について学ぶことになりました。

社会科「昔から今へと続くまちづくり・くらしを高める願い」の学習において、様々な地域の開発の中でも、「富士川舟運」については、富士川（釜無川）の水路を利用した開発であり、身近な釜無川のもう一つの重要な歴史の視点ともなるため、「信玄堤」「明治 40 年の水災害」と同様に、博物館の出前講座においてより詳しく学べる計画をしました。

さらに、担任が夏期休業を利用した山梨県総合教育センターの「博物館を利用した授業づくり」研修を受講して、山梨県立博物館の活用の仕方を学びました。

2 博学連携活動の概要

- ・対象 竜王西小学校 4 年生 64 名，4 年担任
(「明治 40 年水災害」については 4 年生保護者も出前講座へ参加)
- ・実施日時，人数，場所，学習内容

実施日	曜日	時間	人数	場所	学習内容
6 月 13 日	(木)	13:55~14:55	128 人 (親子)	体育館	「明治 40 年水災害」
8 月 7 日	(水)	9:30~16:20	1 人 (担任)	県立博物館	「博物館を利用した授業づくり 研修会」
10 月 16 日	(水)	9:00~10:30	64 人	音楽室	「信玄堤」
10 月 25 日	(金)	9:30~12:45	64 人	県立博物館	常設展見学・工作体験
11 月 6 日	(水)	9:00~10:30	64 人	音楽室	「富士川舟運」

3 学習の様子と成果

6 月に行われた 4 年生親子学習会では，県立博物館教育主事村田先生と小畑学芸員から明治 40 年水災害について教えていただきました。博物館や市で所蔵されている水害の時の様子を描いた貴重な絵画や写真を見せていただき，水害を体験した人の話を教えていただきました。水害の原因について，長く降り続いた雨量と明治時代の勧業政策から多くの木を伐採し山を大切にしなくなったことで，緑のダムとしての機能が果たせなかったことを学びました。そこで，山を大切にする恩賜林や北海道への移住についても説明をしていただき，今の時代につながる学びもできました。さらに，地域の地形の特徴を踏まえ，水災害を始めとする過去の歴史を学び，今の時代にどのように生かすかという考えを示唆していただきました。

8 月のセンター研修では，県立博物館の姫野先生と村田先生から，常設展示品の説明をしていただき，山梨の歴史に残る資料について学ぶことができました。その後，この先生方のお話をお手本に，さらに，受講者がチームを組んで先生役となり，常設展示品を活用したミニ授業を他の受講者へ行う活動がありました。受講者はそれぞれ，小，中，高，特別支援学校から受講された先生方でしたが，それぞれのお立場で自分達が授業をされているお子さんの姿を念頭に入れた授業アイデアを出されていて，短時間のミニ授業でしたが，授業者役としても子ども役としても楽しく学びの深い時間でした。また，その授業づくりで活用した博物館常設展示案内は，解説もあり，ミニ授業づくりにも活用できたため，購入して，社会科授業「昔から今へと続くまちづくり（信玄堤）」「暮らしを高める願い（富士川舟運）（地方病とのたたかい）」「私たちの県のまちづくり（伝統工芸の紙漉き）」「山梨の産業と観光（富士山のふもとのまちづくり・富士山信仰）」の中で，実物投影機を使って見せることができました。

社会科授業では、「ふるさと山梨」や「山梨防災ブック 2019」「博物館常設展示案内」「YBS 開局 50 周年記念特別番組信玄堤DVD」などの資料から信玄堤について学習しました。山梨県版社会科学習ノートにも学習内容を記入して知識・理解を定着させました。この学習の頃と重なる 10 月 11 日（金）から超大型台風 19 号が接近し、大雨と強風がありました。この台風は、長野県千曲川の氾濫や東北地方などへ大きな水災害をもたらしました。その後の 10 月 16 日（水）の出前授業「信玄堤」では、中野学芸員から、過日の千曲川流域の水災害についても触れながら、「川が曲がる場所で洪水がおこるので、いかに川の流れを弱めて流すか」ということについて解説をしていただきました。江戸時代の初めに描かれた信玄堤の絵図や戦国大名武田信玄の古文書、信玄堤の模型を使つての治水の工夫を見せていただきました。さらに、昔から伝わる川除の神事と江戸時代にも残る水害の歴史の記録から、山梨の地形をふまえた水害への備えについて教えていただき、子供達は自分ごととして、真剣に話を聞いていました。

その後、10 月の博物館見学では、出前授業でもお世話になった村田先生と、姫野先生から、4 年生のこれまでの社会科学習の学びとして取り上げてきた「水」をテーマとした常設展示コーナーを中心に詳しく解説をしていただきました。事前の社会科「信玄堤」の学習でも登場したふるさとに伝わる貴重な資料を直接見て学ぶことができ、子供達は、大変興味深く学ぶ姿が見られました。また、博物館見学の事前学習として、朝活の時間を使って、各自が、校外学習のしおりへ入れた「かいじあむワークシート ジオラマ編や展示編」の初級・中級を見ておいたので、昔から使われていた言葉や展示品の見所を確認することができました。子供達は、出前授業でもお世話になった先生から博物館で直接またお話を伺うことができたので、より身近に出前授業でも登場した展示物を見学して、学習の振り返りができました。

11 月の出前講座「富士川舟運」では、博物館見学をふまえて、村田先生と中野学芸員から急流日本一である富士川の説明と江戸幕府を開いた徳川将軍の政策と富士川舟運の始まりとの関係について教えていただきました。この中で、富士川舟運で使われた高瀬舟の大きさと積まれた米俵の数とその重さについて具体物で解説され、積まれた米俵の重さは、児童 1 人の体重を 30 kg とすると、竜王西小 4 年生の子供達 64 人全員分と同じくらいの量（1 俵 60 kg で 32 俵分）に相当する重さであることが分かり、子ども達は驚いていました。俵を積んで江戸へ年貢米として出したことが始まりの水路の役割は、興味深いお話であり、子供達は歴史とその交通の変革について、気がついた様子でした。

4 課題

博物館の展示品や博物館に収蔵されている山梨の歴史資料を社会科授業に活用していくことができるように、授業者が博物館で学ぶ機会をもつことと、地域に根ざした教育課程を見通し、学習教科に関連させた博物館の活用ができるように計画を立てていくことが必要だと感じました。

かいじあむティーチャーズクラブ実践発表資料②

特別支援学校中学部生活単元学習「体験活動を通した学び」

わかば支援学校ふじかわ分校
三浦 大樹

（１）はじめに

わかば支援学校ふじかわ分校は、南巨摩郡富士川町にある、知的障害、肢体不自由を対象とした特別支援学校である。在校児童生徒は17名で、内訳は小学部11名、中学部6名となっている。

今年度、ふじかわ分校では、「児童生徒の意欲を高め、必要な力を育むための授業づくり」を研究主題をとって、研究に取り組んでおり、中学部では、体験的な学習を通して、主体性・社会性の育成を目指していくことを、テーマとしている。具体的な検証の場となる授業を、中学部2・3年生の生活単元学習とし、特に修学旅行に向けた単元を取り上げて授業づくりの研究を進めてきた。本実践は、そういった経緯の中で、体験活動を通して、生徒の意欲を高めたり、学びを深めたりすることをねらって行われており、ミュージアムキットの武田信玄紙芝居と戦国時代キット（鎧、火縄銃、模造刀）を山梨県立博物館より借用させていただき行ったものである。

（２）実践内容

①単元名 生活単元学習「修学旅行に行こう」

②単元の目標

- ・年表作りや歴史の大まかな流れや出来事、人物の学習を通して、知識を広げたり、自分の知っている知識と結びつけたりすることができる。
- ・山梨と東京を比較して、それぞれの違いを知り、興味をもったことを調べたり、聞いたりすることができる。
- ・公共交通機関を利用する際に、どんなことを調べればよいか知り、実際に調べることができる。
- ・分からない時や困った時に、人に聞くことができる。
- ・現在から歴史をさかのぼることで、現在と過去の歴史的なつながりに気づくことができる。
- ・公共交通機関の利用方法を知り、実際に利用することができる。
- ・自分の知識や調べて分かったことを発表することができる。
- ・友だちや先生の話の聞いたり、実際に体験をしたりすることで学びを深めることができる。
- ・友だちと話し合いながら活動することができる。

③単元の指導計画

（１学期）

- 第1次 さかのぼり日本史（令和～室町）。年代調べ。年表作り。 5時間
第2次 武田神社について。修学旅行の行程発表。 2時間

（２学期）

- 第3次 歴史学習のまとめ（体験）2時間 本時
第4次 1日目について（江戸城・江戸東京博物館）3時間
第5次 2日目について（ディズニーランド）1時間
第6次 3日目について（江戸風鈴・東京タワー）2時間
第7次 ホテルについて 1時間
第8次 校外学習事前学習 2時間
第9次 校外学習（武田神社）、事後学習 6時間

第 10 次 荷物調べ 1 時間

第 11 次 最終確認・結団式 3 時間

修学旅行（皇居東御苑，江戸東京博物館，ディズニーランド，東京タワー等）

第 12 次 事後学習 2 時間

④実践の流れ（指導案）

【单元名・題材名】 修学旅行に行こう⑤ 歴史学習のまとめ（体験）				
【本時のねらい】 ・戦国時代の出来事や人物，特に武田氏について知ることができる。（知識・理解） ・当時の人々の暮らし（服装や食べ物）について体験を通して知ることができる。（知識・理解） ・鎧について予想することができる。体験した後に感想を発表することができる。（思考判断表現） ・紙芝居に注目することができる。体験活動に意欲的に参加することができる。（関心意欲態度）				
【実施日時】 9 月 3 日（火） 12：55～14：30			【実施場所】 中 2・3 教室	
【該当児童生徒名・グループ名】 中学部 2・3 年生 3 名			【指導者名】 ○三浦，中込 t	
展開	時間	学習活動	指導上の留意点・[教師の動き]	備考
導入	12：55	○はじめのあいさつ ○1 学期の復習 歴史に関するいくつかの発問 ○本時の内容について 武田信玄について学びを深める 昔の人の暮らしを体験する	持ち物：筆記用具，ファイル 手を挙げて答える。 一人一回は答えられるように。 歴史のつながりについて再確認する。 →出来事を覚えることが重要ではなく，色々な出来事に歴史があり，今・未来につながっている。	
中心活動	13：05 13:45	○武田信玄の紙芝居 ・CT が読んでいく。適宜補足説明をする。 →川中島の合戦の前まで読み，続きは明日の読むことを確認する。 ○昔の人の暮らしを体験する 発問：昔の人（武士）は戦いの時何を着ていたのか？ なぜ鎧を着ていたのか？ 重さは何キロくらい？ 予想を書く 学習室に移動する 鎧を見せる 順番に鎧を着てみる 他の生徒は火縄銃や刀の説明を受ける 来た生徒は刀の攻撃を受けてどう感じるか試してみる →感想 黒米と玄米を食べてみる。 →感想	注目を促す。 翌日ワークシートでまとめをする。 ワークシートに記入。 時間をとる 体重を量って重さを求める。 「刀，火縄銃，弓矢，槍などの攻撃から身を守る」に気づけるように。 ワークシートに記入	発言者・生徒の様子の記録
まとめ	14：25	○ふりかえり ○おわりのあいさつ	・簡単に振り返りを行う。	

（３）実践結果

1 学期は歴史的分野について、興味をもったことについて調べることを中心に学習を進めてきたが、研究会の中でテーマになっている体験的な活動も充実していけるとよいという意見が出され、2 学期の最初の授業は歴史学習のまとめとして、鎧や刀、火縄銃、古代米を用いた体験的な学習を行った。以前、教育実習生が来た際にも活用させていただいた戦国時代キットを今回も活用させていただき、合わせて武田信玄の紙芝居も活用させていただいた。

授業の構成としては、まず武田信玄についての紙芝居を読むところから始めた。歴史が好きな生徒もいるが、苦手な生徒もいるので、どういった反応になるか予想がつかない部分ではあったが、どの生徒も食い入るように紙芝居を見ており、教師の話に耳を傾けていた。終わった後は、「分かりやすかった」といった感想も聞かれ、翌日のワークシートでの振り返りでは、選択肢のある問題ではあったが、全員が全問正解であった。

次にメインの活動である鎧の体験についてであるが、この活動では体験に先立って、鎧は何のために着るのか、重さはどれくらいか予想を立ててもらった。予想を立てた上で、実際に着用してみると、「敵の攻撃から身を守るため」ということを感じてもらうことをねらった。

予想を立てる活動が始まると、そもそも鎧がどんなものかイメージがもてない生徒（A）もいて予想を立てるのが難しく、「できない、分からない」といった気持ちになってしまった。その影響を受けてか、歴史が好きだが、考えることが苦手で、少し情緒に波のある B も意欲が下がってしまうといった状況になった。そんな雰囲気の中であったが、場所を移動して、比較的気持ちの面で安定している C から鎧の着用をしてみることにした。実際に C が鎧を着ていく中で、籠手をつけて、胴をつけてといったように、C の鎧姿ができあがっていくと、実物の鎧の魅力は大きかったようで、徐々に B が立ち上がって覗き込んでくるようになり、どんどん気持ちが上向いていく様子が見て取れた。そして C の着用が終わるころには、B は「いいね」「武士みたい」といった感想を述べて、活動への意欲を取り戻した様子だった。そして、次の人を決める際に、B は「やるか」と言い、自分から体験活動に参加することができた。鎧を着用して、刀を持って写真を撮るなど、先ほどの様子とは打って変わって笑顔で活動に参加することができた。続いて、A も先輩に続いて鎧を着用することができた。これまでの 2 人の様子を見た上で、実際に鎧を着てみた状態で、刀の攻撃を受けてみることで、昔の人は鎧を何のために着ているのかの問いに対して、教師のヒントも受けながら「切られないため」と答えることができた。他にも、着用前と後の体重を C が量ることで、重さを計算することができ、全員の生徒が学んだことをワークシートにまとめることができた。

（４）終わりに

まず紙芝居キットについては、木の枠や拍子木もついており、出てきた段階で生徒の関心が高まっていく感じが感じられた。内容については、生徒の実態に応じる部分もあると思うが、今回の生徒たちにとっては、興味を引き、内容的にも分かりやすかったのではないかと感じた。少し長い内容であったので、生徒たちの集中力も考慮して 2 回に分けたが、話の区切りが何度かあるので自然に分けることができ、次に読むときは、前回の復習もしながら読むことができた。読み手の意識としては、前日に少し練習してから、講談を聞かせるようなイメージで読んだが、うまく読めなかった部分もあったので、練習は大切だと感じた。

メインの活動については、予想を立てるという活動をする際に、そもそものイメージがもてているかの確認をすることが不十分であったという授業づくり上の課題はあったが、その後の活動の経過からも、戦国時代キットを活用した体験的な活動のもつ力は十分に感じる事ができた。一度、生徒の意欲の低下を招いてしまったものの、その 2 名が再び授業に主体的に参加でき、目標を達成できたのは、実物のもつ力があってこそだと感じた。中学生男子生徒が着用するには少し小さかったが、写真を撮るときどの生徒もよい笑顔だったのが印象的だった。また、ただ楽しむだけでなく、重さや用途などについて体験を通して、考えて知ることができ良かったと感じている。

その後の校外学習や修学旅行についての様子としては、校外学習では、甲府の信玄ミュージアムと武田神社の見学をしてきた。Bは係の人の説明を聞く中で、これまで学習してきた内容が出てきたり、説明されたりすると嬉しかったようで、こちらを振り返って笑顔を見せて確認する様子が見られた。Cは武田氏資料館で川中島の戦いの回数を係の人に問われて、紙芝居で出てきた内容だったので、自分から答え、1度間違えてしまったが、言い直して答えることができ、係の人からも褒められ嬉しそうな様子であった。修学旅行でも、武田神社と江戸城の比較を通して、石垣の積み方の違いに気づく様子が見られ、お堀の規模の違いも印象に残っている様子だった。江戸東京博物館での、鎧や刀の展示もまた違って見えたのではないかと感じている。

今回の実践を通して、体験を通した学びの重要性を改めて感じる事ができた。同時に、ただ活用して体験すればよいという視点ではなく、生徒の実態に応じたねらいをもって、有効に活用するためにこちらも十分な準備をすることが大切だと感じる事ができた。今後も児童生徒の体験を通した学びのために、ミュージアムキットの活用を始めとして、博物館の力を貸していただきたいと感じている。